



問い合わせ先



上智大学四谷キャンパス1号館1階
学事局 Sophia Future Design Platform 推進室
〈2025年度秋学期 申込期間〉7月1日(火)～各講座の初回講義日の2週間前まで
※定員に達した場合、早めに締め切る場合あり

お申し込み
は
こちら



紹介ムービー
は
こちら



<https://sgcp.sophia.ac.jp/>
✉ global-citizen-co@sophia.ac.jp

上智地球市民講座



 上智地球市民講座

上智大学
公開講座
2025年度
秋学期

地球に生きる
市民として、
自らの生き方を
自らデザインする

上智



地球市民



講座

〈対象〉
社会人、大学生、高校生はじめ
すべての方

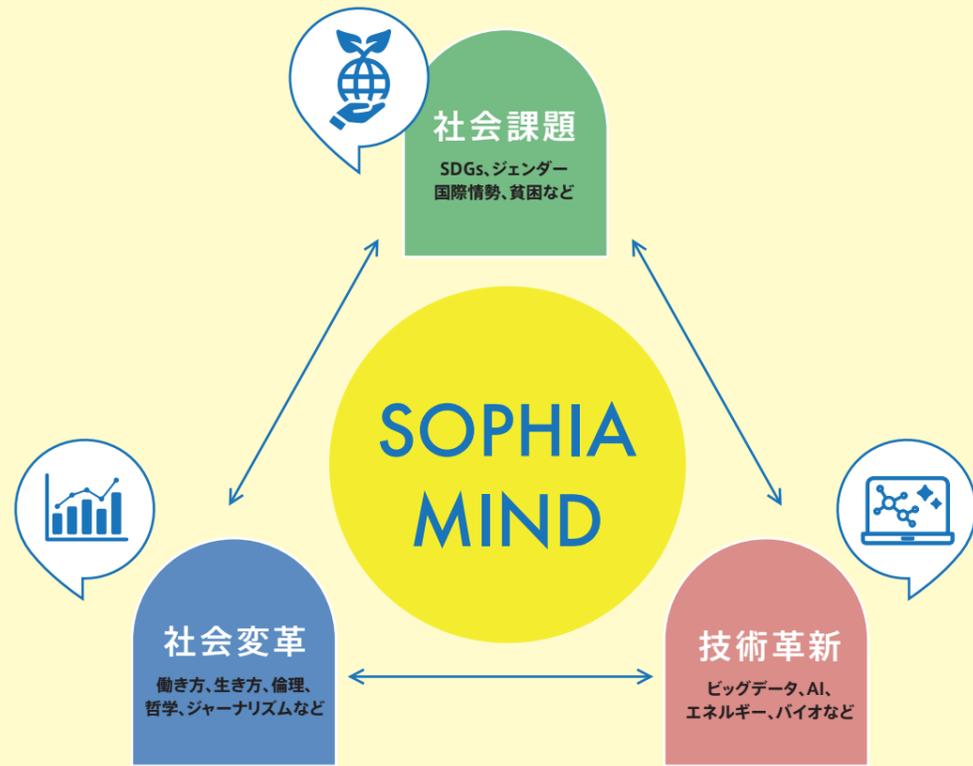


上智大学
SOPHIA UNIVERSITY



上智地球市民講座とは？

社会変革の時代に、自らの『地球市民』としての生き方を、
前向きかつイノベティブにデザインするための学びの場です。



「上智地球市民講座」は、国内外で同時進行しているこれらの事象と向き合い、
自分がどのように生きていくべきか、
自身を成長させる4つのマインドセット (Sophia Mind) の向上を目指します。

SOPHIA MIND

- | | |
|--|--|
| <p>MIND 01 “個”を深める
自分に対する気づき・オリジナルな経験</p> | <p>MIND 02 “生きる”を彩る
多角的な視点・異質との出会い</p> |
| <p>MIND 03 “未来”を見つめる
今を知る・社会と自分の展望</p> | <p>MIND 04 “他者”に寄り添う
自身の相対比・他者との向き合い・奉仕</p> |



『地球市民』としての生き方を、 自らデザインするための学びに

近年の急速な社会情勢の変化の中で、私たちは地球に住む市民として、どのように生き、
社会に参画することで、よりよい自分や社会を実現できるのでしょうか。
本学では、全ての人に開かれ、全ての立場が交流し、全ての目的に開かれる学びの場として、多様な立場の方が集い、
様々な視点から議論し、新たな価値を創出する機会を提供するべく、2024年に“上智地球市民講座”を開設しました。
本講座を通して、「智を展開する場」、「智が交流する場」を経験していただきたいと考えます。
本講座が、どのような時代、社会背景にあっても、前向きに自らの生き方をデザインし、
個を深め、“生きる”を彩るきっかけを得ていただけるものとなることを確信しています。

2025年度 受講料

【一般受講者】1講座12,000円
【高校生以下・上智関係者※】1講座10,000円

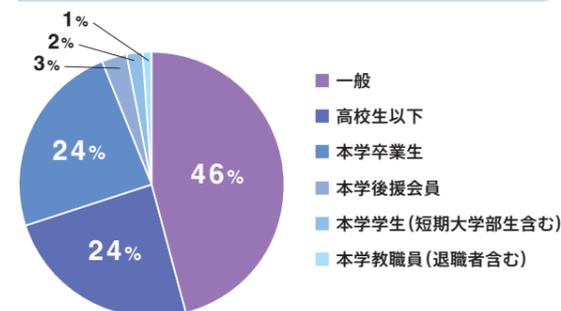
- ※「上智関係者」の対象
- ・上智大学、上智大学大学院、上智大学短期大学部の在学生 (非正規生を除く)
 - ・上智大学、上智大学短期大学部、上智社会福祉専門学校、聖母大学、聖母看護学校の卒業生
 - ・後援会会員
 - ・本学教職員 (退職者含む)
 - ・本学特別契約教授、本学特任教員

★2講座同時申込でお得なバック割引もぜひご利用ください★

【一般受講者】2講座22,000円 (2,000円割引)
【高校生以下・上智関係者】2講座18,000円 (2,000円割引)

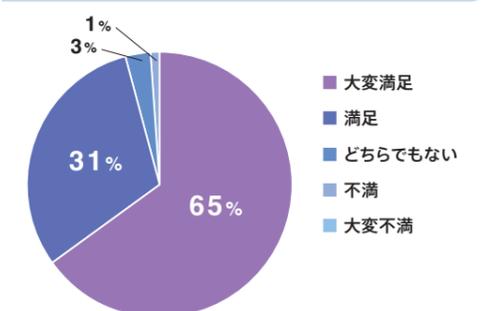
※1講座ずつ別々に、計2講座お申し込みいただいた後に、2講座同時申込割引バックに変更することはできません。

2024年度 受講者属性



多様な受講者とともに学べる環境

2024年度 受講満足度



受講満足度96%

社会課題

変わりゆく日本の人々の自画像 –NHK放送文化研究所 2 調査の50年から–

2025年は教えて昭和100年、戦後80年となります。日本社会の急激な変化は、私たち日本の人々の生活や意識を大きく変えてきました。その代表格は1950年代後半～1970年代前半の高度経済成長となります。しかし、その高度成長期を経験した人々はシニア層となりつつあり、バブル不況後の「失われた30年」をふまえると、現在の30代以下の若者・子ども層は、先行き不透明の低成長期と災禍の日本しか経験していないことになります。そこには、世代間の生活感覚、意識の違いが如実に横たわり、それらが合成されて現代日本の実態が作られています。そのような日本の人々の生活感覚や意識の変化を記録しようと、50年の長きにわたり、NHK放送文化研究所が取り組んできた『日本人の意識』『国民生活時間調査』の社会調査があります。本講座では、それら2つの調査を中心に他の調査も交え題材を選び、日本の人々が調査に回答することで自ら唱えてきた自画像をどのようなものとして描けるか、長期的社会調査の面白さと受講者の皆さんの関心をあわせながら、ともに考えていきたいと思ひます。

秋学期開講日程 第1回 10/6(月) 18:30～20:00 第2回 10/20(月) 18:30～20:00 第3回 11/17(月) 18:30～20:00 第4回 12/1(月) 18:30～20:00

時事トピックから現代社会を読み解く –オウム真理教事件と「宗教二世」問題–

本講座では、90年代中盤に生じたオウム真理教事件と近年生じた「宗教二世」問題を取り上げて、その背景にある私たちの社会の現状と将来について考えていきます。新宗教にはかなりの数の熱心な人々が存在しますが、それ以外の多くの人々からは十分に理解されず、しばしば異様な集団として回避される傾向があります。本講座では、こうした事件の概観とその発生・持続にかかわる社会的背景について社会学の立場から解説いたします。その上で、これからどうしたら良いのか、その望ましい将来像について一緒に考えていきたいと思ひます。ここで取り上げるテーマは、容易に理解しあえない他者とのように同じ社会の中で生きていけばよいのか、という共生の課題を私たちに突きつけるものです。グローバル化が進み、多様性(ダイバーシティ)が声高に叫ばれる日本社会の中で、異質な他者とのように付き合うべきかについて少し立ち止まって考えてみませんか。

秋学期開講日程 第1回 10/4(土) 10:00～11:30 第2回 10/18(土) 10:00～11:30 第3回 11/8(土) 10:00～11:30 第4回 11/22(土) 10:00～11:30

地域からジェンダー平等を

この講座では、日本におけるジェンダーギャップの現状と課題を、統計データや研究資料を用いて多角的に考察します。冒頭では、都道府県別ジェンダーギャップの可視化データを参照し、受講生自身の関心や疑問を引き出します。続いて、ジェンダーギャップ指数の計算方法を学び、教育や産業など具体的な分野における格差の実態を、論文や公的データを通して検討します。数値をもとに社会構造を読み解く力を養い、同時に自らの意見を他者と共有する姿勢を育むことを重視します。最終的には、個人の経験と社会のデータを接続しながら、ジェンダー平等に向けた課題と展望を自分の言葉で論じることを目指します。

秋学期開講日程 第1回 10/8(水) 19:00～20:30 第2回 10/22(水) 19:00～20:30 第3回 11/5(水) 19:00～20:30 第4回 11/19(水) 19:00～20:30

ラテンアメリカから発信された経済思想 –豊かで平等な社会を目指して–

ラテンアメリカ(中南米)は、豊かな資源に恵まれながら、深刻な貧困や格差の問題に悩まされてきた地域として知られていますが、それに抗うように、豊かで平等な世の中を目指してさまざまな経済思想が育まれてきた地域でもあります。この講座では、そのような経済思想の一部を垣間見ること、ラテンアメリカ地域が辿ってきた足取りを学ぶとともに、格差が拡大しつつあるともいわれる日本社会に暮らす者として、ラテンアメリカから何が学べるかについても考えてみたいと思ひます。地球の裏側を見ることで我が身を振り返る、そんな講座にできればと思っています。

秋学期開講日程 第1回 10/9(木) 18:30～20:00 第2回 10/23(木) 18:30～20:00 第3回 11/6(木) 18:30～20:00 第4回 11/20(木) 18:30～20:00

ブラジルから見た世界 –存在感が増すグローバルサウスを考える–

※春学期の講座とほぼ同一内容になります。

今、世界では対立や分断によって不確実性が増えています。そんな国際情勢の中でグローバル・サウスという言葉がよく耳にします。南米ブラジルもグローバル・サウスの国の一つです。昨年2024年はG20首脳会議の議長国として、「飢餓と貧困に対するグローバル・アライアンス」の立ち上げに大きく貢献しました。2025年もBRICS首脳会議やCOP30(気候変動に関する国連枠組条約)などブラジル開催の国際会議が目白押しです。日本との関係では、同じく2025年は国交開始から130年を迎えます。地理的な距離はありますが、日本移民を基礎とする「人と人を介した」関係が日本とブラジルの間には存在します。食糧や天然資源が豊富なブラジルは日本の将来を考える上で重要な国です。この講座を通して、世界の中のブラジルの立ち位置、日本外交にとってブラジルの持つ意味は何かを考える機会になればと考えています。

秋学期開講日程 第1回 10/4(土) 14:15～15:45 第2回 10/18(土) 14:15～15:45 第3回 11/8(土) 14:15～15:45 第4回 11/22(土) 14:15～15:45

アメリカと世界、そして日本

※対面:大阪サテライトキャンパスにて開催

国内の激しい分断の中、トランプ第二次政権が始まったアメリカ。これからのアメリカ、世界、そして日本の今後を本講座では展望します。覇権国・アメリカはどこに行くのか。ロシア・中国との対立はどうなるのか。日本への影響はどうか。そして国際秩序はどう変容するのか。この激動の時代の私たちの針路を受講者の皆さんと検討します。具体的には、講座時点で最も重要な話題を取り上げて論じながら、激変する国際関係の変化を読み解き、今後の私たちの針路を考えていきます。最新のお話をこれまでの政治の文脈とらえ直す形ですので、復習的に振り返る部分はありますが、過去の講座とは大筋では重複しない形ですので継続受講も歓迎いたしますし、新規受講者にとっても分かりやすくお話をいたします。

秋学期開講日程 第1回 10/18(土) 11:30～13:00 第2回 11/15(土) 14:30～16:00 第3回 12/20(土) 14:30～16:00 第4回 1/25(日) 13:30～15:00

上智大学で学ぶアンコール・ワット –考古学・地域研究・文化遺産論–

※春学期の講座とほぼ同一内容になります。

現代社会における文化遺産は、単に保護するだけでなく、その文化資源としての活用に期待がかかっています。上智大学が長年取り組んできたカンボジアのアンコール遺跡における調査・研究及び普及教育活動を振り返りながら、現代社会における文化遺産保護の仕組みと国際協力、そして活用への理解を深めると同時に(グローバルな視点)、地域社会の人々の日常や信仰実践から文化遺産のありかたを問い直します(ローカルな視点)。

秋学期開講日程 第1回 10/2(木) 19:00～20:30 第2回 10/16(木) 19:00～20:30 第3回 10/30(木) 19:00～20:30 第4回 11/13(木) 19:00～20:30



総合人間科学部
社会学科
特別契約教授
藤村 正之



総合人間科学部
社会学科
教授
芳賀 学



経済学部
経済学科
准教授
竹内 明香



外国語学部
イスパニア語学科
教授
谷 洋之



外国語学部
ポルトガル語学科
教授
子安 昭子



総合グローバル学部
総合グローバル学科
教授
前嶋 和弘



総合グローバル学部
総合グローバル学科
教授
丸井 雅子

※講師昇書は2025年4月時点

技術革新

毒の魅力 –毒から薬へ–

“毒を以て毒を制す”、“毒にも薬にもならない”、“綺麗な花には毒がある”等、数々の言葉に毒が登場します。我々を取り巻く環境には植物・動物・菌類等に由来する多種多様な毒が存在し、日常生活は毒と共にあると言えるでしょう。我々はこれらを意識的に、または無意識のうちに摂取しながら生きています。毒をただ恐れたり、興味本位に扱うのではなく、確かな科学の目で分析し、その有害作用の発現メカニズムや有用性を理解することにより、生体の不思議さ・命の尊さを毒を介して知ることを本講座の目標とします。また、薬の歴史は人類と毒との関わり方の歴史とも考えられ、原始の試行錯誤の経験から現代に至る毒の研究の蓄積が多くの有用な薬の誕生に繋がっています。毒の歴史、その由来、人間との係わり、薬との関係などを解説し受講者の好奇心を刺激します。本講座を通して毒を知ること、我々が体内に取り込む多くの化学物質を科学的に見直すきっかけになる事を期待します。

秋学期開講日程 第1回 10/3(金) 18:30～20:00 第2回 10/10(金) 18:30～20:00 第3回 10/17(金) 18:30～20:00 第4回 10/24(金) 18:30～20:00

AIの社会への貢献と課題 ※春学期の講座とほぼ同一内容になります。

現代の人工知能(AI)は人間社会にどう貢献しているのでしょうか。あるいは、そこには何らかの弊害も生じているのでしょうか。第3次AIブームにより社会が大きく変容している現在、これらの問いに対する「答え」も日々変化し続けています。開発途上国では、確かにAIを含むデジタル技術により医療や教育、金融などサービスの質が大幅に向上している分野があります。他方で、AIやロボットによる自動化技術により雇用が奪われたり、AIを利用できる人々と利用できない人々の間で格差が拡大するのではないかとといった懸念を上げる声も少なくありません。この講座では、AIが貧困削減をはじめ持続可能な開発目標(SDGs)の様々な目標に対してどのように貢献できるのか、あるいはどのような負の影響を及ぼしうるのかについて、最新の事例や研究を通して学習します。扱うトピックは貧困、農業、環境、医療、教育など多岐にわたります。様々な分野におけるAIの功罪を問うことで、私たち自身の今後の暮らしや社会について考えることを目指します。

秋学期開講日程 第1回 10/10(金) 18:30～20:00 第2回 10/24(金) 18:30～20:00 第3回 11/7(金) 18:30～20:00 第4回 11/21(金) 18:30～20:00

電子レンジの魔法 –マイクロ波の科学とその応用–

本講座では、電子レンジの技術が私たちの生活に与えた影響と、今後の未来にどのように革新をもたらすかを探ります。4回の講義を通して、電子レンジの歴史や仕組みから、最先端の応用技術まで幅広く学びます。第1回:電子レンジの知られざる歴史と進化 電子レンジは、第二次世界大戦中の偶然の発見から誕生し、家庭用機器として広まりました。本回では、発明の背景や「食品を温める革命」の始まりを解説し、冷凍食品の進化と電子レンジの関係についても触れます。第2回:マイクロ波の謎を解き明かす!電子レンジのマイクロ波は、物理と化学の力を活用しています。この回では、マイクロ波が食品にどのように作用するかや特殊な加熱の現象などについて解説します。科学的視点から、電子レンジの仕組みを理解します。第3回:電子レンジを使いこなすプロフェッショナルになろう!実践的な使い方を学び、時間とエネルギーを節約するためのコツや裏技を紹介します。家庭で役立つ簡単な美味しいレシピや、電子レンジのトラブル解決法も取り上げ、安全に使うための注意点も学びます。第4回:物質生命を変える電子レンジの驚異的な応用 最終回は、電子レンジの技術が応用されて「化学、生物学、エネルギー、環境分野」に与える革新について考察します。マイクロ波が水素エネルギーや廃棄物問題にどう貢献するのか、未来の食文化にどのように影響するのかを探ります。この講座を通して、電子レンジの持つ未知の可能性と未来の技術を学びます。

秋学期開講日程 第1回 10/9(木) 18:30～20:00 第2回 10/23(木) 18:30～20:00 第3回 11/6(木) 18:30～20:00 第4回 11/20(木) 18:30～20:00

世界は光と電子でできている

環境問題やエネルギー問題など多くの社会課題に対して、自然科学の立場からも考えるきっかけを与えるため、そもそも我々の世界は大元を辿ったら何からできているのか、という問いを本講座の中心に置きます。地球も人間も、原子・分子からできていて、その中で中心的な働きをしているのは光と電子です。春学期に開講した「我々の世界を構成しているもの –光と電子の旅–」の発展版になりますが、春学期の講座を受講していなくても、基礎的な内容から始めるので大丈夫です。本講座では、光と電子がどのような形で我々の世界を構成しているのか、そして地球上のすべての活動は光と電子のおかげであることを講義します。専門的な知識は必要ありませんが、理解を深めるために、簡単な数式や化学式などはできます。光と電子の旅を通して、宇宙・地球・生命・エネルギー・環境などを広い視点から捉えていきたいと考えています。

秋学期開講日程 第1回 10/2(木) 18:30～20:00 第2回 10/16(木) 18:30～20:00 第3回 10/30(木) 18:30～20:00 第4回 11/13(木) 18:30～20:00

ノーベル物理学賞から見た叡智の最前線

人類は基礎科学を通して驚くべき叡智を獲得しました。我々の宇宙には始まりがあり、その年齢は138億歳であることが分かっています。現代科学技術の粋を集めると、光の速さで10億年以上かかるような天文学的な距離にある二つのブラックホールが合体する様子ですら地球で観測することが可能になりました。ミクロな世界に目を移すと、我々を形作る最小の粒子「クォーク」の存在が見えてきます。空間そのものも、単に何か物を入れておく箱ではなく、それ自体が物質と同じ性質を持つということも分かってきました。本講座では、誰も小さいときから考える宇宙や自然の不思議に対して、数式をほとんど使わずに紹介していきます。ノーベル物理学賞を授与された四つのトピックを通して、我々人類の来し方行く末を一緒に考えていきましょう。

秋学期開講日程 第1回 10/27(月) 18:30～20:00 第2回 11/10(月) 18:30～20:00 第3回 11/17(月) 18:30～20:00 第4回 12/1(月) 18:30～20:00

デジタル技術と社会的課題のつながりを理解する ※春学期の講座とほぼ同一内容になります。

デジタル技術の進展は目覚ましいものがあります。コロナ禍によりオンラインでのコミュニケーションが普及し、生成AIの登場は社会に大きなインパクトを与えています。すでにデジタル技術は見えないところで私たちの生活を支えています。今後、地球規模の社会的な課題の解決にますます重要な役割を果たすことが期待されています。本講座では、人工知能(AI)、モノのインターネット(IoT)、ビッグデータ、クラウド、仮想現実(VR)などのデジタル技術の基礎と最新技術を学んだ上で、デジタル技術が経済、社会、環境などの地球規模の課題やSDGsとどのようにつながっているかを具体的な事例を見ながら理解を深めます。さらに、受講する皆さんと一緒に、デジタル技術で持続可能な社会にどう貢献できるかを考えていきます。

秋学期開講日程 第1回 10/3(金) 18:30～20:00 第2回 10/17(金) 18:30～20:00 第3回 10/31(金) 18:30～20:00 第4回 11/14(金) 18:30～20:00

不確かな世界と向き合うための統計学のハナシ

この講座では、統計学の基本的な考え方を通じて、「不確かな世界」に向き合うための視点を身につけます。平均や中央値といった“ふつう”の見え方、グラフが与える印象の操作、関係性と因果の違い、そして確率をもとに判断すること——これらを身近な例から読み解きながら、数字やデータをどのように受け止め、どう使うべきかを考えていきます。専門用語や数式は最小限にとどめ、文系・初学者の方にもわかりやすく進めていきます。社会人や高校生、シニア層まで、データに対する“まなざし”を育てたいすべての方におすすめの全4回です。

秋学期開講日程 第1回 10/4(土) 14:15～15:45 第2回 10/18(土) 14:15～15:45 第3回 11/8(土) 14:15～15:45 第4回 11/22(土) 14:15～15:45



名誉教授
笹川 展幸



経済学部
経済学科
准教授
倉田 正充



理工学部
物質生命理工学科
教授
堀越 智



理工学研究科
理工学専攻
教授
江馬 一弘



理工学部
機能創造理工学科
教授
平野 哲文



理工学部
情報理工学科
教授
萬代 雅希



基盤教育センター
非常勤講師
鎌田 浩史

※講師昇書は2025年4月時点

社会変革

潜伏キリシタンから「かくれキリシタン」へ

ー長崎・天草のユネスコ世界文化遺産から探るー

※春学期の講座とほぼ同一内容になります。

高校までの歴史の授業で、カトリック系学校の多くを含めて、キリシタン史全体を学ぶことはほとんどありません。本講座では、①ザビエルによるキリスト教の日本伝来から、1600年前後の隆盛期、②江戸幕府による禁教令発布から、キリシタンの250年以上に及ぶ潜伏期、③1865年の信徒発見から、かくれキリシタンの誕生とその離伏期、④「長崎と天草の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコ世界文化遺産に登録された(2018年)前後の「かくれキリシタン」の様相の4時期を辿りながら、キリシタン史の概要を学びます。潜伏キリシタンと「かくれキリシタン」との概念上の相違にも注意を払い、キリシタン版やオラショ、聖画像、マリア観音像などの宗教文化的遺産の事例を、写真を通してですが、具体的に確認して学びを深めたいと考えています。

秋学期開講日程 第1回 10/21(火) 18:30～20:00 第2回 10/28(火) 18:30～20:00 第3回 11/18(火) 18:30～20:00 第4回 11/25(火) 18:30～20:00

教養としての組織論ー官僚制化の弊害ー

春学期の講座では、メインテーマである「教養としての組織論」の問題提起と現代社会に生きるすべての人びとが組織論を教養として学ぶべき理由を取扱いました。その問題とは、このところ日本で進行している国力の低下、社会の劣化はなぜ起こっているのか、という問題です。その原因はきわめて複合的なものだと考えられますが、組織論を専門とする私の目には、組織がうまく機能していないことが大きな一因になっているように見えます。今期の講座では、「ー官僚制化の弊害ー」という副題をつけました。官僚制は、近代に特徴的な組織およびその管理として登場してきたものです。現代に生きる私たちは、人類史上もっとも能率的な組織である官僚制の恩恵に浴してきました。近代以降、官僚制の普及とともに、社会は高度化し、生活はより豊かなものになってきました。にもかかわらず、このところ日本の国力は低下し、社会は劣化し続けているのでしょうか。今期は、官僚制について基礎的な理解をしていただいた上で、その問題に対する答えを探ります。

秋学期開講日程 第1回 10/17(金) 18:30～20:00 第2回 10/31(金) 18:30～20:00 第3回 11/14(金) 18:30～20:00 第4回 11/21(金) 18:30～20:00

聖書にみる人生の四季と希望ー「希望の巡礼者」として歩む・その2ー

春夏秋冬それぞれの季節に美しさや恵みと厳しさや困難があるように、「人生の四季」すなわち私たちの生涯の各時期にも、その時期に特有の恵みや厳しさがあるものです。本講座では、人生の四季を歩みゆく人間の姿を、聖書の視点をヒントに探求します。各回で春夏秋冬のそれぞれの時期に注目し、春学期にとりあげた聖書箇所とは異なる箇所や人物をとりあげながら考察を深めます。現代の私たちは人生の旅路をいかに「希望の巡礼者」として歩みゆくことができるでしょうか。聖書の語りに耳を傾け、現代の生涯発達研究をも参考にしながら対話的に考えます。

秋学期開講日程 第1回 10/8(水) 18:30～20:00 第2回 10/22(水) 18:30～20:00 第3回 11/5(水) 18:30～20:00 第4回 11/19(水) 18:30～20:00

『モモ』に学ぶ「いのち」の人間学ー時間は「いのち」なのですー

1973年に出版された『モモ』は総発売部数360万部のロングセラーです。コロナ禍が始まって以来、特に注目され、「時間とは何か」という普遍的な問いを通して、人間存在について、つまり私たちの人生について深く考えることのできる作品です。この講座では、まず、ミヒヤエル・エンデの生涯を知ることから始め、「モモ」という一見ただの子ども向けファンタジーの背景にある実存的な問題にアプローチしてゆきます。次にアンリ・ベルクソンの「時間と自由」で展開されている哲学思想やフロムの「愛するということ」などを参考にしつつ、『モモ』を深く読み解いてゆきます。また、エンデの思想の基盤にあるキリスト教の死生観にも言及し、真の幸福を探求し、今を充実して生きるための知恵を探ってみたいと思います。

秋学期開講日程 第1回 10/3(金) 18:30～20:00 第2回 10/10(金) 18:30～20:00 第3回 10/24(金) 18:30～20:00 第4回 11/7(金) 18:30～20:00

心を情報処理機構として捉えるー認知心理学への招待ー

※春学期の講座とほぼ同一内容になります。

例えば誰かに褒めてもらい、嬉しい!と感じたとき、「心」が動いている実感が得られると思います。では、なぜ受け取った言葉が「褒めている」と内容と分かったのでしょうか?そもそもなぜ、音や文字のかたまりを言葉として認識できるのでしょうか?私たちが普段の生活の中で当たり前のことだと考えている、見たり、聞いたりすること、そしてその内容を解釈することは、実は心の重要な働きなのです。心理学の専門領域の一つである「認知心理学」では、人の心を情報処理機構として捉え、私たちの周りにある事柄が認識される仕組みを研究しています。本講座では、そのような私たちの心の情報処理機構としての側面一端について、様々なデモンストレーションを交えながら紹介し、一緒に考えてみたいと思います。

秋学期開講日程 第1回 10/14(火) 19:00～20:30 第2回 10/28(火) 19:00～20:30 第3回 11/11(火) 19:00～20:30 第4回 11/25(火) 19:00～20:30

持続可能なまちづくり

※昨年度の講座とほぼ同一内容になります。

「まちづくり」は、「都市計画」という用語と異なり、市民が主体となった都市形成という側面を強調する言葉として、1970年代以降に広まりました。21世紀の日本では、地方都市の中心市街地衰退の問題に象徴されるように、全国規模の人口減少と少子高齢化が進むなか、まちや集落などの地域社会の持続可能性が問われています。近年用いられる「地方創生」という用語も、「まちづくり」をめぐる文脈の変化を踏まえたものです。21世紀におけるまちづくりを、持続可能性という視点から捉えるとき、その特徴が見えてきます。この講座では、主として地方小都市や中山間地といった人口減少に直面する自治体の例を取り上げながら、交通、観光など、異なる主題をめぐって取り組まれるまちづくりの事例を読み解くことを通じて、21世紀の日本における社会変革の可能性について考えてみたいと思います。

秋学期開講日程 第1回 10/4(土) 10:00～11:30 第2回 10/18(土) 10:00～11:30 第3回 11/8(土) 10:00～11:30 第4回 11/22(土) 10:00～11:30

行動経済学者と考えるこれからの資本主義社会での働き方・生き方

※春学期の講座とほぼ同一内容になります。

物質的な豊かさを追求してきた20世紀型の資本主義社会は、環境問題、貧富の格差、社会的孤立など、多様な問題を生んでしまいました。日本社会はその典型で、最も豊かな国の一つでありながら、幸福度が低く、自殺者が多い社会となってしまっています。行動経済学は人間行動の科学的な知見に基づいて、経済行動や経済現象を理解しようとする学問で、人々の幸福についても研究が進んでいます。この講座では、資本主義社会の光と影の部分を実行動経済学の視点から理解し、その中でどのように働いていけばか、生きていけばかを受講者の皆さんと一緒に考えていきます。

<予定している講義の概要>●行動経済学が考える人間行動のメカニズム ●幸福感はどのように決まるのか ●幸せな働き方・生き方 ●資本主義社会において「資本」を持つとは 貯蓄から投資へのシフトを考える ●資本主義社会の課題(環境問題、貧富の格差、社会的孤立)を実行動経済学の視点で考える

秋学期開講日程 第1回 10/2(木) 18:30～20:00 第2回 10/16(木) 18:30～20:00 第3回 10/30(木) 18:30～20:00 第4回 11/13(木) 18:30～20:00



名誉教授
高祖 敏明



名誉教授
小林 順治



神学部
神学科
教授
武田 なほみ



神学部
神学科
教授
片山 はるひ



総合人間科学部
心理学科
教授
日高 聡太



総合人間科学部
社会学科
教授
田淵 六郎



経済学部
経済学科
教授
川西 諭

国際人権規範を使って、自分の暮らしと社会を変えてみようー「学ぶ」から「動く」へー

「世界/社会を変えたい」なら、その一員である「自分が変わる」ことから始めてみてはどうでしょうか?他人事だと思っていたことが自分と関わっていること、個人的なことが地球規模課題とつながっていること、日々の暮らしは政治や社会運動によって変わり得ることを事例から学び、実践につなげるヒントを提供します。性別、性自認、性的志向、年齢、障害の有無、民族、国籍や母語の違い、婚姻や家族構成、就労状況による立場の違いに起因する差別や格差に気づき、その克服を「ソーシャル・アクション」の実践を通じて学びます。1)自分自身の学びや行動変容による個人のアクション、2)仲間と学び、類似の活動を支援するコミュニティ・アクション、3)NGOなどの活動に参加し当事者と直に接する現場でのアクション、4)仕組みを変えていくための政策提言など社会に対するアクションの4段階をみなさんと議論しながら、デザインしてみましょう。

秋学期開講日程 第1回 10/8(水) 19:30～21:00 第2回 10/22(水) 19:30～21:00 第3回 11/5(水) 19:30～21:00 第4回 11/19(水) 19:30～21:00

国際教養と生き方(2)

この講座では、国内外の映画や文学の名作から生き方のヒントを探ります。春学期は世界的に有名な4人の映画監督(小津安二郎、黒澤明、James Ivory、黒木和雄)に焦点を当て、彼らの代表作の芸術性や意味を考察し、家族、孤独、真実、正義、善悪、愛、喪失、生きることの意味などについて議論しました。秋学期は、4人の有名作家(E.B. White, George Orwell, 大江健三郎、Franz Kafka)による、並外れた生き物とそれが人間に与える影響を扱った文学作品に焦点を当てます。生と死、友情、政治、平等、愛、許し、存在の意味などについて議論します。春学期と秋学期の講座は、別々に、また順番に関係なく受講できます。

秋学期開講日程 第1回 10/10(金) 17:30～19:00 第2回 10/24(金) 17:30～19:00 第3回 11/7(金) 17:30～19:00 第4回 11/21(金) 17:30～19:00

地球市民の鉄道学ー「身近」から「発想」を得る視点ー

現代社会における科学技術の進展は、劇的で、また急速です。この100年の技術進化、深化の象徴として、私たちにとって身近な存在となった鉄道システムが挙げられます。あまりに身近な存在であり日常生活の足となっている鉄道を、新たな視点で見える機会を設けられればと思います。その複雑で巨大な機械システムには、生きるヒントや社会のダイナミクスを見る視点が詰まっているのです。生きる上でのリスク管理や、自分自身のメンテナンス、そして様々な場面でのマネジメントに対して、この無言の、しかし日々動き続ける機械システムは何かを教えてくれるはずですよ。何を得られるか?それは私たちの視点次第でもあります。そこから引き出されるヒントは人それぞれ。それぞれの受講者が得るヒントを皆で共有できる場を創ることができればと考えます(この講座は鉄道工学を探究するものではなく、科学技術から日常へのヒントを引き出す試みとして実施します)。

秋学期開講日程 第1回 12/9(火) 18:30～20:00 第2回 12/16(火) 18:30～20:00 第3回 1/13(火) 18:30～20:00 第4回 1/20(火) 18:30～20:00

共感の時代の哲学ーショーペンハウアーとニーチェ思想の観点からー

現代は「共感の時代」と呼べるほどに、わたしたちは日々「共感」を重視し、コミュニケーションの基盤としています。たとえば「共感力」はビジネスパーソンの必須スキルとされ、医療従事者の患者対応にも期待されるなど、多くの場面でポジティブなものだと考えられています。ですが、他方で、「共感」のしすぎや押しつけが同調圧力や抑圧の原因として問題になっています。また、目先の人への「共感」だけではよりよい社会を目指すことはできないという批判もあります。この講座では、現代の「共感」をとりまく状況について哲学的な視点から考察し、とりわけショーペンハウアーやニーチェといった哲学者たちの「共感」をめぐる考えを参照し、受講生同士で対話していくことで、わたしたち自身が「共感」についてどんな思い込みを持っていて、いかなる希望をもつことができるのかを考えていきます。

秋学期開講日程 第1回 10/1(水) 18:30～20:00 第2回 10/15(水) 18:30～20:00 第3回 10/29(水) 18:30～20:00 第4回 11/12(水) 18:30～20:00

キリスト教教育の現在と希望ー「教育」からキリスト教をひもとくー

日本には多くのキリスト教系の教育機関(幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、大学など)があり、これらは2000年以上続くキリスト教と深く結びつきつつ、現代においても独創的な観点から教育を通して社会への応答を試み続けています。本講座では、キリスト教と教育の関係を多角的にひもときながら、現代におけるキリスト教の意義とそれがもつ可能性を、次の四つのポイントを中心に皆さんとともに考え、様々な実践やその中に通底する教育哲学を丁寧にみていきたいと思います。①キリスト教と教育の現在②キリスト教の聞き方と伝え方③キリスト教と教育の関わり方の歴史④イエズス会教育の方法とこれからの教育への提案。これまでキリスト教教育に関わってこられた方はもちろん、キリスト教系の学校で学ばれたことのない方も、あるいは現在カトリック系の大学などに興味を持っている高校生の皆さんも、ぜひお気軽にご参加ください。

秋学期開講日程 第1回 10/7(火) 18:30～20:00 第2回 10/14(火) 18:30～20:00 第3回 10/21(火) 18:30～20:00 第4回 10/28(火) 18:30～20:00

メディアと女性認識ーどこから来て、どこへ行くのかー

「女性が輝く社会」といわれて久しいですが、実際のさまざまな場面(会社や学校その他社会全般)では、女性に対する旧態依然とした「視線」が注がれることが多々あるのが事実です。「女性はオンナらしく」「女性だからこうあるべき」という社会に根づいた「暗黙の規範」は、一方で男性の在り方を模範とし、「らしさの枠組み」に押し込めてきました。本講義は、そうした「らしさ」を求めた認識はどこから来たのか、そしてそれはどのように私たちの在り様を規定してきたのかを、共に考え、理解を深め、真の意味での「公平」「平等」は何かという問いに答えようという試みです。私自身、長らくテレビ報道の現場で仕事をしてきた経験を活かして、「メディア」という現場で何が起きているのかをひとつの例題として提示し、性別役割分業、日本型福祉社会論、女性認識、などについてより具体的に考えて行こうと思っています。

秋学期開講日程 第1回 9/29(月) 17:30～19:00 第2回 10/13(月) 17:30～19:00 第3回 10/27(月) 17:30～19:00 第4回 11/10(月) 17:30～19:00

ジャーナリストと学ぶメディアと現代社会

ニュースは人々の生活に密接に関わっています。この講座では、ニュース記事はどのように作られ発信されるのか、ジャーナリズムが果たす役割と課題、SNSの影響やフェイクニュースについてなど、メディアと社会の関係について多角的に学びます。講師が英字新聞の記者・編集者だった経験から、日本のメディアだけではなく、海外メディアの特徴などについても講義します。また、ジャーナリストになったつもりで、簡単なインタビュー体験の機会も作りたくと思いますので、取材した情報をどのように整理し、伝えるかなど、発信する側の立場から見えてくることについても考えてみたいと思います。メディアリテラシーやジャーナリズムに関心のある方、また英語の知識は問いませんが、英文メディアについて知りたいと思う方は大歓迎です。世の中にあふれる情報をどう社会変革に役立てることができるか、皆さんと一緒に考える講座にしたいと思っています。

秋学期開講日程 第1回 10/9(木) 18:30～20:00 第2回 10/23(木) 18:30～20:00 第3回 11/6(木) 18:30～20:00 第4回 11/20(木) 18:30～20:00



総合グローバル学部
総合グローバル学科
教授
田中 雅子



国際教養学部
国際教養学科
教授
ユー・アンジェラ



理工学部
機能創造理工学科
教授
嚙道 佳明



基礎教育センター
特任助教
梅田 孝太



基礎教育センター
キリスト教人間学領域
助教
松村 康平



ニュースキャスター
ジャーナリスト
福山女子学園大学
国際コミュニケーション学部
客員教授 安藤 優子



ジャーナリスト
東京大学情報学環講師
昭和女子大学客員教授
大門 小百合